

(提案書 様式①-1)

協働の機会提案書(新規提案用)	
2018年 7月 24日	
印西市長 板倉 正直 様	
(登録者) 登録番号 30 — 001 名称 こむ net ちば 所在地 印西市若菰 代表者職氏名 代表 安齋 美幸 ㊟ 連絡先	
企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。	
提案事業名	訪問傾聴ワーカー(見守り隊)養成講座
現状・課題 (指定テーマ型の場合 はテーマ名のみ記入)	今年10万人を超え、若い世代が増える一方で、高齢化率が40%を超える地域もある。アンケート(民生委員対象)によると、高齢者への支援(81.1%)が市民からの要望で一番多く、後継者がいないこと(66%)、地域コミュニティの希薄化、地域との情報交換が少ないことが、困っている。地域包括支援センターは各圏域にあるが、どこに相談をして良いかわからない高齢者や話し相手になって欲しい高齢者もある。よって、コミュニティが希薄になっており、支援の手も足りないが、高齢者支援は市民から必要とされている現状があり、課題と考える。
提案理由	現状から高齢者への日常的で気軽に話ができる支援の手が少ないことが課題であると考え、今回、定期的に訪問傾聴をし、何かあれば制度やサービス機関、窓口に繋ぐ社会資源が必要と考えた。
提案内容 (予算の概算も記入)	高齢者へのボランティアとして必要な知識(ボランティア論、障害者、高齢者理解)や傾聴で必要な知識(傾聴、精神疾患への傾聴)を学び、課題があれば、窓口に繋がられるよう、制度等も学び、訪問傾聴+ワーカーができる人材を養成することを提案する。(予算 50万円)
貴団体の特性、協働 で実施するメリット (提案者が事業実施できる能力や有利なアピールポイント)	発達障害理解講演会(6月9日)、ジェンダー講演会(10月20日予定)等を企画運営しており、毎月2回あるカフェも、1月から始め7月までに、12回の講座やワークショップを開催。社会福祉士、産業カウンセラーの有資格者もあり、松戸市、流山市、新宿区など的高齢者や生活困窮者等の支援団体、ジェンダーの団体とも繋がっている。講師も依頼予定、打診済み。
事業実施により 得られる効果 (自由提案型は今後の 展望も記入)	事業実施後は、高齢者支援をする社会資源の1つとなり、民生委員の補完的な存在にもなり得る。北部、南部、船穂・牧の原などの地域包括支援センターと連携し、定期的に訪問傾聴をすることで、認知症や詐欺の早期発見などにも繋がる。 また、昨今、包括支援センターでは、高齢者相談から、子どものひきこもり等の相談もあると聞かため、そうした家族に対して、生活困窮者自立支援事業との連携も可能と考える。

(提案書 様式①-2)

協働の機会提案書(継続提案用)

平成30年 7 月 24 日

印西市長 様

(登録者) 登録番号 23—003
 名称 NPO 法人谷田武西の原っぱと森の会
 所在地 印西市木刈 3-9-1
 代表者職氏名 理事長 矢野眞理 (印)
 連絡先 白井市大山口 2-4-6-503
 電話：080-5087-7235

企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

<p>提案事業名</p>	<p>武西の里山 保全と調査事業</p>
<p>現状・課題 (前年度の実施を踏 まえた課題)</p>	<p>平成 30 年度の調査により、植物やそれにつながる動物、また両性類などの姿がより鮮明になってきました。これにより、どこをどのようにいつ保全することが、生物多様性を維持し育むことになるのか、保全方法についての手掛かりが見えてきました。また、印西市との協働により、草刈り作業を今までよりも広く行うことができるようになり、クズやセイタカアワダチソウが繁茂してしまったエリアを在来の植物が芽吹きやすくなるような環境に整えることができました。</p> <p>昔、人の生活と生き物が共生していた里山。人の生活様式が変わり、里山と人のかかわりが薄くなってしまった今、里山環境を守る保全活動は、なくてはならないものです。協働事業を通して得た経験を積み上げ、その結果を生かして、多様性を守る管理方法やルールを作り、市民が参加しやすい方法確立する必要があります。</p> <p>また、今後、人が入ることのリスクを、どのように自然との共生につなげていくか。どのようにグリーンインフラとして地域の環境に利する活用計画をつくっていけるかという課題があります。</p>
<p>提案理由</p>	<p>印西市との協働事業が進むにしたいが、今まで以上に武西の里山の保全・調査について意思疎通、作業協力が可能になりました。里山を保全するための課題を乗り越えるには、さらに経験と調査結果を積む必要があります。協働の関係のなかで問題・実績を市と共有しながら、事業を進めていきたいと考え、継続の提案をいたします。</p>

<p>提案内容 (前年度の実施を踏 まえた改善内容)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保全事業 <ol style="list-style-type: none"> 1) 草地の草刈り 2) 湿地の手入れ・キシウブなどの外来種除去 3) ゴミ拾い 2. 調査・研究事業（東邦大学・千葉県中央博・茨城県自然博 協力） <ol style="list-style-type: none"> 1) 植物 2) 動物 両生類・昆虫類・魚類 3) 水質 4) モニタリング <ol style="list-style-type: none"> ① アカガエル卵塊 ② メダカ ③ ヘイケボタル ④ 一般鳥類 ⑤ 猛禽類 5) 大学(東邦大学・東京大学) の地域の環境に資する研究への協力 <ol style="list-style-type: none"> ① 植物 ② 昆虫 ③ 湿地と台地の生きものと水環境
<p>貴団体の特性、協働 で実施するメリット</p>	<p>当会は 2008 年から対象地が千葉県企業庁から印西市と白井市に無償譲渡される前年度まで、企業庁に立ち入り申請を行い、荒廃による環境の劣化を防ぎ、自然環境を維持する保全活動と、高い頻度で現場に入って行う環境調査やモニタリングを展開してきました。市有地となった現在も調査・研究と保全作業をシステムとしてつなげ、里山の自然環境を維持・再生していく活動を続けています。</p> <p>また、安全面についても定期的に草刈りや草刈り機器の扱い、安全講習を行い、技術と安全性の向上に努めています。</p> <p>約 10 年間にわたって積み上げて得た保全の方法と、調査による具体的な環境の把握の実績は、今後市が管理保全していく上で参考になるのではないかと考えています。</p>
<p>継続実施により 得られる効果 (自由提案型は今後の 展望も記入)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境の劣化を防ぎ、生物多様性を維持、育むことができる 2. 里山の景観を良好に保つことができる <p>今後の展望</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 市民と行政の協働による里山環境の保全の手法を育てる 2. 都市に隣接した里山の生態系という特質をいかした里山の姿を構築する

(提案書 様式①-2)

協働の機会提案書(継続提案用)

2018年7月25日

印西市長 板倉 正直 様

(登録者) 登録番号 28-004
 名称 NPO法人 里地里山保全ねっと
 所在地 印西市美瀬1-7-9
 代表者職氏名 理事長 高橋 幸治 印
 連絡先 090-5784-3740

企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

提案事業名	イノシシ等の獣害対策としての荒れた里山の整備事業
現状・課題 (前年度の実施を踏 まえた課題)	新規事業のため契約に時間を要し整備作業の開始が遅れたことにより、雑草や枝が著しく繁茂し作業が追付くのに時間がかかった。このことにより堆肥化する刈り草の量も大幅に増加した。 また、休耕田には用水の流入があり止水に時間がかかった。
提案理由	イノシシ対策として「捕獲駆除」「防護柵」「生息環境の管理」を同時に実施することが効果的と言われている。印西市で行っている捕獲駆除と電気柵等の防護対策に加え、市民や所有者が共同で生息環境の管理を実施したい。荒れた里山や不耕作地の整備保全活動を進め、イノシシが生息しづらい環境の整備を進めていく。そして、市民が里山に親しみ、印西市の自然環境を満喫できるような里山づくりを行いたい。
提案内容 (前年度の実施を踏 まえた改善内容)	前年度より実施している美瀬地区の環境整備は継続し、新たに隣接地区へ整備範囲を拡大する。また、樹林地からのイノシシの通路となる農道の斜面部分についても高さ2m程度まで篠竹の整備を進める。 イノシシの調査方法として自動カメラを設置し夜間の出没調査も行う。 また、箱ワナ、くくりワナを設置し捕獲調査も実施する。
貴団体の特性、協働 で実施するメリット	いには野地区の住民を中心に設立した里山環境の保全を目的にした団体で、循環型の里山整備を実施している。今年4月にNPO法人化を図り活動の質を高め規模の拡大を行っている。 地域住民が中心となって里山整備によるイノシシ対策を実施することで、住民の環境意識の向上が期待できる。また対象地域の近隣住民の団体が実働・整備することにより、市として直接実施しづらい荒れ地の草刈りや竹林整備等の環境施策が行いやすくなると考えている。

<p>継続実施により 得られる効果 (自由提案型は今後の 展望も記入)</p>	<p>前年実施部分に加え隣接地の不耕作地を整備することで、住宅地との接続部分のイノシシ対策地域が拡大し、農作物被害や住民とイノシシの遭遇機会を減らすことができると考えている。</p> <p>また、この不耕作地の整備は里山の景観改善にも繋がり、整備地周辺の里山を散策する市民の姿を見かけるようになった。</p> <p>今後は、散策コースの整備や里山学校のような環境教育も行っていきたい。更に里山整備の際に出る刈り草や伐採竹の堆肥化等による有効活用を進めて行く。</p>
---	---

(提案書 様式①-2)

協働の機会提案書(継続提案用)

平成30年 7月 25日

印西市長 様

(登録者) 登録番号 29 - 002

名称 印西防災研究会
 所在地 印西市武西学園台
 代表者職氏名 会長 向井地純一 ㊞
 連絡先

企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

<p>提案事業名</p>	<p>自主防災組織の活性化事業</p>
<p>現状・課題 (前年度の実施を踏 まえた課題)</p>	<p>印西市の全部の自主防災組織に対して、「自己点検チェックリスト」アンケートを実施。回収64組織、回収率70%であった。その結果、自主防災組織の運営にかなりの濃淡があることが判明。 総合点で見ると、55点以下が61%となっており、底上げが必要となっている。また、55点以上は、優良事例も散見され、その発掘・紹介が必要となっている。加えて、自主防災組織からは、在宅避難のマニュアル化のニーズもかなり多く出されている。さらに、自主防災組織の未設置率も58%あり、その解消策が求められている。</p>
<p>提案理由</p>	<p>市防災課と協働で、自主防災組織の活性化に取り組む。</p>
<p>提案内容 (前年度の実施を踏 まえた改善内容)</p>	<p>① 6種類のわかりやすい防災マニュアルの活用や、優良事例の発掘・紹介を通じて、取り組みの遅れている自主防災組織の底上げを図る。 ② 在宅避難マニュアルの策定 ③ 自主防災組織未設置の解消推進 未設置の理由・原因を把握し、設置率10%アップを目指す。</p>

<p>貴団体の特性、協働 で実施するメリット</p>	<p>印西防災研究会の活動も、メンバー9人で、来年3月で丸4年。市防災課と協働で自主防災組織の活性化に取り組むことができる。</p>
<p>継続実施により 得られる効果 (自由提案型は今後の 展望も記入)</p>	<p>市防災課との協働による、自主防災組織運営の知識の啓発・普及や自主防災組織未設置の解消推進により、自主防災組織の活性化に役立つ。 将来的には、各自主防災組織を横断的につなぐ、「印西市自主防災組織連合会」の新規立ち上げを目指す。</p>

(提案書 様式①-1)

協働の機会提案書(新規提案用)

平成30年7月25日

印西市長 板倉 正直 様

(登録者) 登録番号 20-001
 名称 NPO法人 エコネットちば
 所在地 印西市竹袋72
 代表者職氏名 理事長 斎藤 敏男 ⑩
 連絡先 0476-42-4741

企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

<p>提案事業名</p>	<p>竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業</p>
<p>現状・課題 (指定テーマ型の場合はテーマ名のみ記入)</p>	<p>竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業の実施</p>
<p>提案理由</p>	<p>市の水生公園構想により整備された竹袋調整池と周辺地域は、景観に恵まれ、四季の花、飛来する野鳥など、豊かな自然を楽しめる憩い場であり、市民や周辺地域の人々に愛されている。この景観と環境保全のために継続した維持管理が必要である。</p>
<p>提案内容 (予算の概算も記入)</p>	<p>花畑と調整池の周回遊歩道沿いの花植え、緑地の草刈、植栽管理、ごみ清掃を実施して、景観維持と快適な環境を維持する。 1. 花畑の整備 2. 定期的な草刈 3. 日常随時のごみ清掃 (概算予算 : 3,000,000円)</p>
<p>貴団体の特性、協働で実施するメリット (提案者が事業実施できる能力や有利なアピールポイント)</p>	<p>エコネットちばは地元で活動するNPOで、地域住民・地元町内会・商店会・学校や他市民活動団体とも協力して、花畑づくりや地域まつり(コスモスふれあいまつり)を実施してきた。この地域の維持管理を行政との協働事業で実施することで、住民からの信頼期待に応えられる。</p>
<p>事業実施により得られる効果 (自由提案型は今後の展望も記入)</p>	<p>協働事業に提案実施して10年、継続した維持管理により、環境が保全でき年々花畑も充実してきた。今後もひょうたん島池広場が、憩い、癒し、そして健康増進に、より多くの皆さんに愛され利用される場を提供できる。</p>